

大会長挨拶

日本放射線影響学会第52回大会を2009年（平成21年）11月11日から13日までの3日間、広島市南区民文化センターにおいて開催いたします。広島での開催は、2005年（平成17年）に広島大学原爆放射線医科学研究所の神谷研二先生のご尽力により第48回大会が開かれて以来4年ぶりとなります。しかし、設立34年目を迎える放射線影響研究所にとっては、開催のお世話をさせていただくのは今回が初めてとなります。ということで、この第52回大会が意義ある大会になるよう、研究所が一丸となって種々の準備を進めてまいりました。

放射線影響研究所は、皆様すでにご存知のとおり、広島・長崎両市における原爆被爆者の追跡調査を主務とする研究所であることから、今回の学会のメインテーマを「放射線健康影響と疫学」とさせていただきました。しかし、その発表内容としてはDNA修復などの基礎科学から疫学研究まで幅広い範囲に対応しております。

本大会の特色として、内外から特別講演のため2名の演者をお招きしたほか、広島で開催することの意義を考えて、「広島からのメッセージ」を本大会参加者の多くの方にお伝えする企画、および「ヒロシマの平和活動・国際貢献」を紹介するランチョンセミナーを催すことにいたしました。

また、本大会開催にあたっては、放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）との共催事業として市民公開講座を企画いたしました。演者には、国連チェルノブイリ調整官としてチェルノブイリ原発事故報告書の作成にも関わった、国際協力機構（JICA）副理事長の大島賢三氏をお迎えしております。

なお、懇親会では、瀬戸内海の海の幸、広島風お好み焼き、広島の地酒など、県内の名産を取り揃えておりますので、ゆっくりご堪能いただければと思います。

最後になりましたが、学会長はじめ多くの学会関係者の方々、そして本大会開催の趣旨にご賛同いただき格別のご支援を賜りました各位に心より厚く御礼申し上げます。

平成21年10月吉日

日本放射線影響学会第52回大会

大会長 大久保 利晃